

留学生を対象とした初級用日本語教材の開発 —受給表現を題材とした映像教材の効果的な制作手法の研究—

†岩根 信 †坂下 涼太 †村井 誠紀

東京工科大学メディア学部

1. 研究背景

受給表現(または授受表現・やりもらい表現)とは、物や行為による恩恵の受給を表す表現である。

受給表現は、日本語学習者にとって難しいとされている。この難しい表現を、日本語教育現場では主に寸劇で教育している。寸劇で教育するよりも映像教材を使った方が、日本語教師と学生の認識の違いが生じないことや、授業時間が削減できるという事から、学習効果が上がると私たちは考えた。

そこで、留学生にとって理解しやすい、映像を活用した受給表現の補助教材を開発することにした。

2. 研究目的

学習者にとって理解しやすい補助教材を作成するために、特に重要だと思われる、シナリオ・映像・字幕を研究した。シナリオでは、留学生がわからない単語や文法などをできる限り除外し、初級日本語学習者でもわかるようなシナリオの作り方を研究した。

映像では、留学生にとって理解しやすい物の受け渡しの撮影技法を研究した。

字幕では、日本語教材においてこれまではあまり使われていなかった、クローズド・キャプションを積極的に活用した。このように、クローズド・キャプションを活用することによって、学習者にとって効果的な補助教材を作成することができた。

3. 例文・シナリオ作成の概要

本補助教材を汎用性の高いものとするため、日本語初級教育において、使用頻度の高い『みんなの日本語』・『初級日本語』・『ひらけ日本語初級』の三冊と、拓殖大学の『日本語・初級』の計4冊のテキストを分析対象とした。これらのテキストから例文、単語を取り出し、さらに受給表現が使われるシチュエーション・人間関係に関して分析を行った。こうした分析を通じて、汎用性の高い補助教材を作成するための基礎資料とした。

分析の結果から受給表現の文法的特徴、文化的要素などがわかった。これらの分析結果を基に、初級留学生にも理解し易いシナリオを作成することができた。

4. 映像教材制作における撮影技法

本補助教材を作成するにあたり、何をどのように見せると効率よく受給表現を学習者に理解させることができるかを考え、一定の法則に基づき効果的な映像制作を行った。

従来の映像教材の物の受け渡しの場面では、留学生が混乱しないようにカット数を増やさず、シンプルな引きの映像となっていることが多かった。しかしこれでは物の所有権が移動した事が分かりづらいと考えた。

そのため本研究では、カット数を増やさずに物の所有権が移動した事がはっきりと分かるカメラワークを提案し、それを基に映像教材を作成した。

具体的なカメラワークとしては、今まで映像教材では使われていない、新しい撮影手法であるドリーを使用し、聞き手が物を差し出した段階で、物を中心にカメラが回るようにドリー移動し、話し手のカットとなるようにした。これにより学習者が映像教材を見ながら、自然と物の移動を理解する事ができるようになった。また、この全ての動きを、カットを変えることなく行う事により、学習者が混乱ないように配慮した。



図1 カット構成の流れ

5. クローズド・キャプションを用いた映像教材

クローズド・キャプションとは ON・OFF できる字幕のことをさす。

見やすい字幕の大きさとは、部屋の大きさ、角度、位置などの視聴環境によって変わってく

る。このような視聴環境の問題は、クローズド・キャプションを使用して字幕の大きさを変えることによって解決できる。

操作する側が、字幕の大きさを選べるようになったことで、大きさが異なる教室で映像を見たときに、見やすい字幕の大きさを選ぶことができるようになった。



図2 28point 図3 36point 図4 44point

6. クローズド・キャプションの応用性

クローズド・キャプションを利用した字幕の多機能性を、映像教材に利用できないか考えてみた。その結果、字幕の大きさを変えるほかに、部分的に字幕を表示したり、穴埋め問題を作成したりするといった機能を活用できることがわかった。部分字幕や穴埋め字幕といった機能を映像教材に加えることによって、学習者にとってより良い映像教材にすることができるようになった。

7. 評価測定

今回の映像教材において、拓殖大学日本語別科でアンケート調査を行い、さらに拓殖大学教授にインタビュー調査を行った。

シナリオでは、映像教材を見てあげる、もらう、くれるの文法が理解できたかというアンケート調査を行った。その結果、大多数からよくわかったという評価を得ることができ、初級日本語学習者にとって分かりやすいシナリオが制作できたといえる。

映像では、今回提案した撮影技法で受給表現における物の移動の流れが、従来の引きの映像より明確になっているかインタビュー調査を行った。その結果、受給表現では視点によって使う動詞が変わるため、明確になって分かりやすいということが分かった。

字幕では、クローズド・キャプションを利用した字幕の表示が、日本語教師にとって役に立つかどうかインタビュー調査を行った。その結果、字幕の大きさを変更する機能は役に立つことが分かった。またクローズド・キャプションを利用して作った、部分的に表示する字幕や穴埋め形式として表示する字幕も役に立つことが分かった。

8. まとめ

今回、留学生を対象とした初級用補助教材を開発したわけだが、例文において効率的な例文、及びシナリオの作成方法を確立した。映像教材における撮影技法においては、物の所有権の移動を新たなカメラワークによって、学習者に容易に理解させることができるようになった。

字幕ではクローズド・キャプションを用いることにより、字幕の大きさを変えることができ、更にはクローズド・キャプションを用いた機能を本教材に付け加えることができた。これにより、学習者にとって効果的な学習ができる。

9. 今後の展望

今回、受給表現の教材として例文、撮影技法、字幕の研究を行った。拓殖大学日本語別科で行った評価測定においては、視聴した80%以上の留学生が従来の補助教材よりも楽しめたと回答をし、本教材を活用したいとの意見をよせてくれた。

このことにより、今回の研究で受給表現の教材において、従来の教材よりもより良い映像教材を作れたという事がいえる。

同様の作成方法によって、例文、字幕は他の文法項目の補助教材でも使用できる。また撮影技法に関しては、対話分や物や場所を指し示す場面で使用できる

さらに、今回とりいれたクローズド・キャプションを他の映像教材にもとり入れることによって、学習者にとって学習の効果が高まるといえる。

参考文献

- [1] 富田隆行, 『教授法マニュアル 70 例下』, 47-62, 凡人社, 1993
- [2] 市川保子, 『初級日本語文法と教え方のポイント』 pp279-292, スリーエーネットワーク, 2005
- [3] 小張敬之, 日本語字幕・英語字幕付きビデオ教材の聴取理解に及ぼす効果の横断的研究, 1996, 『外国語教育論集』, 18, pp113-125, 筑波大学外国語センター
- [4] ブライン・ブラウン, 『プロフェッショナル撮影技法』, pp96-118, フィルムアート社, 2007

Development of Japanese-language Teaching Materials for International Student at Introductory Level

—Effective Production of Visual Materials for Teaching Ways of Expressing Receiving in Japanese—

†Akira Iwane. †Sakashita Ryota. †Seiki Murai.
Tokyo University of Technology